

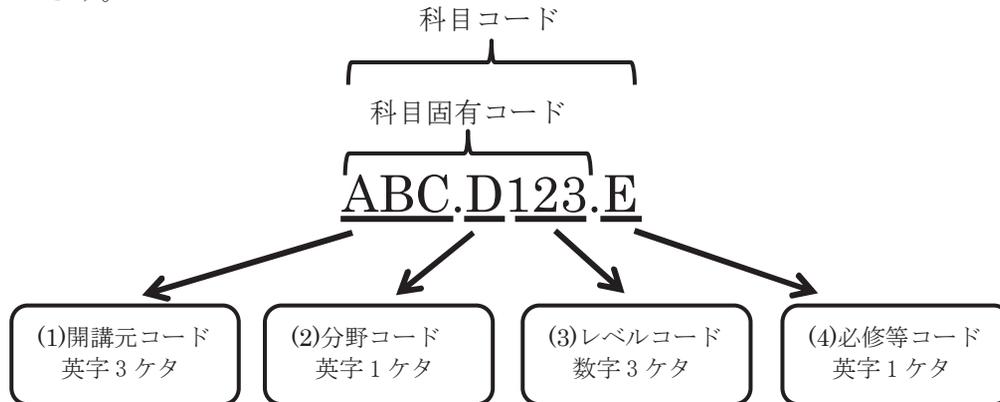
## 2. 科目コードについて

### 1. 科目コードとは

科目コードとは、科目の学問分野や難易度を示した授業科目に付される番号のことです。すべての科目に付してあり、科目コードを活用することで、より体系的な履修計画を立てることができます。

### 2. 科目コードの構成

科目コードは次の4種類のコードから構成されています。なお、(1)～(3)のコードで構成される部分を「科目固有コード」といいます。



#### (1) 開講元コード

授業科目を開講している系（大学院においてはコース）（開講元）や教養科目群の科目区分を表します。

※ 表5及び表6を参照

#### (2) 分野コード

開講元における当該科目の分野を表します。分野コードについては系・コースごとに定めていますので、詳細については各系の標準学修課程の頁を参照してください。

#### (3) レベルコード

本学における科目のレベルを百の位で番台として表します。

※下2桁については基本的には01～29は基礎科目、30～が応用・発展科目を表しますが、必ずしも大きい数字が上位科目とは限りません。

番台	学生が身につける力	対象
100 番台 導入・基礎科目	◎東工大生として学院に依らず必要な知識とマインドを身につける。	学士課程
200 番台 基盤科目	◎専門の学院・系において必要な基礎知識と教養，語学力を身につける。 ◎専門知識を基礎とした発想力，創造力を身につける。 ◎（+）必修科目間の繋がりを理解し，専門知識を英語で理解する。	
300 番台 展開科目	◎専門の学院・系において必要な知識と教養，語学力および表現力を身につける。 ◎専門周辺分野・他専門分野の知識を身につける。 ◎（+）主専門に加え，副専門として系統立った基礎的な専門知識を身につける。	
400 番台 発展科目	◎主専門分野の深い知識を英語で身につける。 ◎大学院生としての教養を身につける。	修士課程， 専門職学位 課程
500 番台 自立科目	◎専門周辺分野，他専門分野の深い知識を英語で修得する。 ◎（+）主専門に加え，副専門の系統立った専門知識を身につける。	
600 番台 熟達科目	◎専門分野における先端的事象を取り上げて研究を遂行し，その成果をグローバルに発表・発信する力を身につける。 ◎課題を発見する力を身につける。	博士後期 課程

(4) 必修等コード

開講元コードで表される系・コース等に所属する学生にとっての必修，選択必修，選択の区分を示しています。

コード	意味
R	必修
A~K	選択必修
L	選択

3. 推奨科目コードについて

科目コードは開講元コードで示される系・コース等の学生に対する情報を表します。一方で当該授業科目はその他の系・コース等の学生に対して推奨科目となる場合があり，開講元以外の系・コース等において付けられたコードが推奨科目コードです。なお，推奨科目コードの構成は科目コードと同じです。

例) A系開講科目「XXX概論」をB系も推奨している場合

「XXX概論」の科目コードは「AAA.X111.R」となる一方で，B系の推奨科目コードは「BBB.Y125.E」のようになります。

※ 推奨科目コードを記載する際は「推奨科目コード(科目固有コード)」とし，科目固有コードと一緒に表記することとしています。例) BBB.Y125.E (AAA.X111)

表5 開講元コード(専門科目群)

学院	系等	開講元コード
理学院	数学系	MTH
	物理学系	PHY
	化学系	CHM
	地球惑星科学系	EPS
工学院	機械系	MEC
	システム制御系	SCE
	電気電子系	EEE
	情報通信系	ICT
物質理工学院	材料系	MAT
	応用化学系	CAP
情報理工学院	数理・計算科学系	MCS
	情報工学系	CSC
生命理工学院	生命理工学系	LST
環境・社会理工学院	建築学系	ARC
	土木・環境工学系	CVE
	融合理工学系	TSE
	社会・人間科学系	SHS
初年次専門科目 創造プロセス科目	理学院	XIP
	工学院	XEG
	物質理工学院	XMC
	情報理工学院	XCO
	生命理工学院	XLS
	環境・社会理工学院	XES
共通専門科目		XCO※

表6 開講元コード等(教養科目群)

科目区分	開講元コード	科目細分	分野コード
文系教養科目	LAH	———	
英語科目	LAE	———	
第二外国語科目	LAL	———	
日本語・日本文化科目	LAJ	———	
教職科目	LAT	———	
広域教養科目	LAW	ウェルネス科目	W
		国際意識醸成・広域科目	X
理工系教養科目	LAS	数学	M
		物理学	P
		化学	C
		生命科学	B
		宇宙地球科学	A
		図学	D
		情報	I
		環境教育	E
		科学・技術の最前線	F
		創造性育成	R

※一部異なる科目があります。